

(司会より)

本日は、社会教育委員会を兼ねていますので、社会教育委員の皆さんが参加してくださっています。

1 あいさつ (河原崎全教育長)

新学期が始まり、3週間が経とうとしているが、大きな出来事もなく順調にスタートできていて、とても嬉しく思っている。

議会の一般質問等の中で、『教育環境(地域とか家庭関係)について』の質問があったので、このスクラムスクール運営協議会の活動をあげ、去年は『早寝・早起き・朝ご飯』に取り組み、今年は、『ゲーム障害・ネット依存防止』に取り組んでいる。特に去年については、大きな成果が上がっていることを説明した。

また、『家庭の経済状況と学力の点数の関係があるのか』という質問があった。市としては、特別に調査はしていないが、「全国学力学習状況調査(4年に一度保護者に関する調査)」を29年度に実施している。経済状況と学力の点数に相関関係があるというようなことは言われているけれども、それは、全てではなくて、大変な状況の中でも頑張っているという子どもさんもいる。

そういう家庭がどういう傾向にあるかというところの分析によると、

- ① 子どもに『規則的な生活習慣を整えている』ということ。
- ② 子どもに『文字に親しむ機会を多くする姿勢』がある。
- ③ 行事やPTA活動に参加するなど、学校教育に協力的である。

というような御家庭の特徴があるということが報告されている。

経済的なことを抜きにして一般的に子供の学力が高いお宅はどんな特徴があったかというところ

- ① 家庭内で会話が深い。
- ② TVやゲームなどの時間とルールを決めている。
- ③ 子供に努力することの大切さ、最後までやり抜くことの大切さを伝えている。

というような特徴があるという報告もあったので、これもお伝えした。

というようなことを考えていくと、この協議会で皆様方に普段取り組んでいただいていること、子どもの教育環境を整えていくということが、経済的な条件以上に大切であると思う。少しでも、子どもたちの子育て環境がよりよくなるように御協力をいただきたいと思います。

2 会長あいさつ

・御前崎中学校区会長

本日もお忙しい中、第3回スクラムスクール運営協議会に参加していただきましてありがとうございます。私は、建築の仕事をやっているが、パソコン・インターネットに結構な時間を使っていると感じている。今は、インターネットがあるのは当然な時代だが、それがゆえにインターネットがストレスの一つの原因になっているという話もある。自分も、ちょっとインターネットに依存しているかもしれないと思い返してみることも必要だと思っている。本日もよろしくお祈りします。

- ・浜岡中学校区会長

本日もお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。今、私たちが取り組んでいる問題は、さまざまところで取り上げられている。例えば、今月、ある市議会の一般質問の中でそのような問題があげられ、それが『子どもを取り巻くスマートフォンの影響について』というような内容の質問だった。

私たちの御前崎市においては、さまざまな立場の人たちがこれだけ集まって、スクラムスクール運営協議会という場でこの問題について検討を既に進めている状況にある。そのような状況を考えると、御前崎市というのは、こういった問題に関して進んでいるということに改めて感じた。本日も活発な意見交換等よろしくお願ひします。

3 学校教育課等より報告

(1) 全国学力学習調査の結果について

(毎年4月に全国の小学校6年生と中学校3年生に行われている全国学力学習状況調査)リーフレットを使って説明。(リーフレットは、小中学校の保護者へ配付する予定。)

- ・学習について

本年度小学校6年生の結果は全国平均より全て高い結果となった。中学校3年生は全国平均とほぼ同じ結果これは例年に比べてもよい結果となっている。

- ・生活について

地域社会をよくするために何をすべきか考える項目が、中学校で高かった。『地域の行事に参加している』これは毎年、小・中学校とも高い結果。

『新聞を毎日読む』『図書室や図書館へ週1回に行く』これらは低い結果。『朝食を毎日食べていますか』の質問に対しては、『食べる』と答えた割合が小中学校ともに全国平均と比べても、昨年度と比べても大きく上回る大変うれしい結果。

しかし、『毎日同じ時刻に寝ていますか』の質問に対して『寝ている』と答えた小学校6年生の割合は大変低い結果。また、『毎日同じ時刻に起きていますか』の質問に『起きている』と答えた6年生の割合も大変低い結果。結果の原因の一つとしては、昨年度末にとったアンケート結果からスマホやゲーム等のネット利用が考えられる。

- ・学習と生活に関する調査結果とクロス集計について

このグラフは『毎日同じ時刻に寝ていますか』の質問の答えと中学校数学の正答率の関係を表したものの。『寝ている』と答えた子の方が数学の正答率が高いことが分かる。『毎日同じ時刻に起きていますか』の質問の答えと小学校校算数の正答率の関係をグラフにしたものを見ると『毎日同じ時刻に起きていない』を選んだ子の正答率が明らかに低いことが分かる。

これらの結果から規則正しい生活習慣、早寝早起きをすることが、子どものもっている力を発揮することにつながっていることが推測できる。これらのデータを保護者の方に伝え、まずは11月17日の『青少年の未来をつむぐ集い』にたくさんの方に来てもらうことで、ゲーム障害という病気から子どもを救ったり、朝から元気よく学校生活を送ることができたりすることに繋がっていけば・・・と思っている。

(2) 11月17日の青少年健全育成『未来をつむぐ集い』の案内のチラシについて

ほぼ完成し、来週中には、学校・園のほうに回せるような形で整ってきている。

『ゲーム障害から子どもを守る講演会』ということで、チラシの1番上のところに『あなたの家は、大丈夫?』という、この会でいただいたキャッチコピーを出させていただいた。

裏面は、もらっただけでも少し考えていただきたいということで、小笠地区の保育士さんたちを対象にした講

演会の中で、講師の方が、お話をされた内容を引用させていただいた。

『僕はお父さん、お母さんのスマホになりたい』というもの。これを見て、興味をもって、この会に参加してもらえる方が1人でも増えれば・・・という思いで載せた。

園から中学校までの保護者の方に行き渡るようにしたいし、全戸配布を行っていききたいと思う。

(3) 11月23日の大産業祭に出店（浜岡中生徒のボランティア参加）

昨年、浜岡中学校のボランティア生徒の御協力を得て、朝ごはんについて宣伝をしていただいた。本年度も、スクラムスクール運営協議会ということで出展して『朝ごはん』のレシピを配布しながら、大切さを訴えていきたいと思っている。

(4) 比木・朝比奈・御前崎・白羽地区健全育成会議で講義

・比木公民館長さんからの報告

7月10日、比木公民館で青少年健全育成懇談会を開催。

スクラムスクール運営協議会に参加させていただいて、テーマについての情報を知る立場にあったので、スマホの関係を地域でも是非聞いていただきたいということで行った。

地域の皆さんも、こういう話を是非、保護者の方々へ伝えていきたいという御意見・お気持ちをもたれたと感じている。

いつも、家庭・学校・地域と言われるが、地域として、どういうふうにかかわっていくかということについては、今までは漠然として答えも着地点も全く見えない中で、地域の社会教育事業として取り組んできたけれども、今回、こういう中で、学力が上がったというような報道を見て、すごく嬉しく思っている。

地域にしても、御家庭にしても、子供たちの学力が上がるということは、素直にみんな期待できると思う。そういう中で、地域として何ができるか、家庭として・・・、学校として・・・というふうに、皆さん考えていると思いますので、そういう意味で、今年はすごく嬉しく思っている。

また、来年度も、このスクラムスクール運営協議会の中で、いろいろな情報を知ったり、また地域へも発信したりしていきたいと考えている。よろしく願いいたします。

・白羽公民館長さんからの報告

白羽地区は、7月31日に地区青少年懇談会を実施。50名参加。ネット・スマホ等について話をした。

具体的に『地域として何をすべきか』というところまではいかなかったが、スマホもネットも避けて通れないツールになっている。それを上手く利用していく。これからの子どもさんたちは将来、絶対それが社会のつえになっていく。そういうことを家族と一緒に話し合うということも、スマホ問題を家族間のコミュニケーションの場として使うのもいいのではないかとということをおっしゃる方がいた。それに大変うなずかれる参加者も多かった。

今回このテーマで懇談会をやったが、来年は公民館が地区センターに変わることっていうことになっている。組織的な変化があった時、こういう子どもの教育の問題を地域センターがどういった内容を共有するか、皆さんと話をしながら、我々も考えていきたいと思う。今年のテーマは、青少年の健全育成懇談会にプラス面が多かったと思っている。

・教育長からのお知らせ

来月10月18日に県教委主催で、静岡県生涯学習推進フォーラムというイベントがある。その時に御指導をいただいている静大の島田先生、浜岡中学校の校舎建築の時に御指導いただいた常葉大の堀井先生、そして、長谷川学校教育課長。あと1人、県外の方。4人でパネルディスカッションをすることになっている。当市

に関係のある人が4人のうち3人が揃う。きっと、スクラムスクール運営協議会のこととか、御前崎の子どもの事とかを話題にしていただけるかと思うので期待したい。御興味のある方は御参加していただければありがたい。

4 協議（グループ別協議：前回と同じグループです）

- ① 学校教育課の報告を受けて（学力調査の結果・チラシ）
- ② 各園や各校、地域で取り組んできたこと 取り組みたいこと
- ③ 講演会を成功させるための取り組み
- ④ 各グループの報告

○各グループの報告

地域グループ

- ② 各園や各校、地域で取り組んできたこと、取り組みたいこと

ネットのメリット・デメリットを子ども達に考えさせる取り組みをして欲しい。

このネット関係については、大人というか、世の中全体が後手に回っているところはある。うまく利用しながら、一歩先をみながら、何か対策を考えるといい。

- ③ 講演会を成功させるための取り組み

具体的対策は出なかったが、今回の講演についてはやはりPTAの協力は欠かせないので、お願いしたい。広報するためには、いろいろな場面で話をしていくと共に、この運営協議会をユーチューブ・『まおまお』とかを使いたい。成績が上がって関心がある時だからこそ、この講演会をとにかく成功させるように期待したい。地区の方では、「公民館にそのチラシ置くよ」とか、地頭方地区でも「回覧を回すよ」という話があった。

御前崎中学校グループ

- ② 各園や各校、地域で取り組んできたこと、取り組みたいこと

御前崎中学校・1学期末の校長の話の中で、スマホについての話をした。

御小・白小・地小・・・情報モラルやネットについての講話を保護者も含めてやっている。

御小は、前回の運営会議の実態調査を行ってその結果を保護者に配った。

白小・・・2学期が始まると、すぐに生活リズムの調査をする。それに、スマホの時間の項目を入れて、今、集計をしているところ。夏休み前に、スマホ使用について子どもと話し合ってくれるように通知を出した。学校保健委員会をメディアについてというテーマで行う。今度の懇談会のテーマは、『ネットとスマホ』

- ③ 講演会を成功させるための取り組み

きずなネットで宣伝すると良い。 チラシを地頭方小でも配ってくれる。

御中学区のPTAは、協力的だから、声をかければすぐに集まってくれるという話があった。期待したい。

こども園グループ

- ② 各園や各校、地域で取り組んできたこと、取り組みたいこと

園では、『ふれあいカード』をやっている。（朝食・健康チェック・排泄・読み聞かせ等）このカード意識づけにいいものになっている。

遊ぶ・遊び込む姿という姿が、今後の学力を高めたり、豊かな成長に繋がったりしていくということを、園だよりとか保育参加会で園長が発信している。子どもの姿を通してということで、親御さんにも分かりやすいということを、役員さんから聞いた。

園としては、園便りをもっと読みやすいものにしていきたい。

③講演会を成功させるための取り組み

今後、園の行事がいくつかある。とにかく園行事の時にPRをしていく。PTA役員さんは強制的に参加という話も出た。

浜岡中学校グループ

②各園や各校、地域で取り組んできたこと、取り組みたいこと

各学校いろいろな委員会がPTA行事等通してすごく話題にして呼びかけをしてくれている。

北小では、ゲーム障害についての理解をきちんとした方がいいということで本を購入。職員で回覧。

このあと、PTAの方にも、回して読んでもらうとのこと。

高校では、生徒会が中心となって、マナーの部分から、取り組んでいる。

第一小では、保健だよりで養護教諭が睡眠の大切さを中心に子どもたちに情報発信。スマホの影響などもわかりやすく載せて配付している。

東小・・・10月7日に学校保健委員会『睡眠について』を予定。是非皆さんにも聞いてもらいたい。

③講演会を成功させるための取り組み

高校もチラシを配付したい。

チラシの内容をもっと工夫したい。(キャッチコピーをプラスのイメージにする等)

各学校で、メール配信。 口コミ。 『まおまお』の放送でPR。ポスターを大きく拡大して、人が集まる所に貼ってもらう。

市のホームページを開いたらすぐに目につくように改善してもらう。

中高生も聞きたくなる話だったら、中高生にも来てもらいたい。講師の先生に期待する。

幼稚園グループ

① 学校教育課の報告を受けて(学力調査の結果・チラシ)

学調についてのリーフレット・・・保護者の意識が高まっていくと思う。これを活用していくとよい。

『同じ時刻に寝ている』の小学生のデータが低すぎる。どうしてなのか分からないので、今、行っている取り組みで今後の結果を変えていきたい。

② 各園や各校、地域で取り組んできたこと、取り組みたいこと

園便りで、新聞等の情報発信もしてきた。これからも利用していきたい。

(保護者自身が認識して欲しい。スマホ等の使い方を保護者にも認識してほしい。)

③ 講演会を成功させるための取り組み

講演会の後もその情報が広まっていくようにするために講演会の映像を残してはどうかという意見も出た。

口コミで情報や危機感を伝えていく。危機感が広まっていくということも含めて、講演会を成功させていきたい。

保育園グループ

② 各園や各校、地域で取り組んできたこと、取り組みたいこと

・地頭方保育園・・・眼科検診を今年初めて実施。その時に、お医者さんから視力の低下を言われてショックを受けたという保護者がいた。スマートホン等の取り扱いについて、子どもたちの健康のために、是非、家族で話し合っていたらいいと思ひ、保護者の許可をもらい、連絡ノートに園便りに載せさせてもらった。生の意見を載せたことによって、他の保護者の方も視力など健康への意識が高まったり、スマホの影響を考えたりするきっかけになった。

- ・高松保育園・・・スマホと上手に取り組む方法ということで、研修を行った。保護者へ遊び方をいろいろ紹介する親子ふれあい活動を行った。お菓子や手づくりおもちゃなどの遊びを紹介。そして、そのことを『手書きの新聞』で保護者にも配付。
 - ・浜岡保育園・・・保育参観会の時に、ゲーム依存・ネット依存のアンケートをとって話し合った。「1歳児でもママのアプリを探せるよ」という意見があり、びっくりした。悪いと分かっているけれど、どうしていいのか分からないという意見が多いとのこと。家庭でルールを作ったりしている良い例があるので、それを伝えていこうと計画している。
 - ・白羽保育園・・・11月に親子活動で『ゲーム障害・ネット依存』について話し合いをする予定。
- ③ 講演会を成功させるための取り組み。
やっぱりロコミが1番。保護者会長さんが、誘ってくれるのが一番。

5 指導・助言

静岡大学 中村先生

学力調査については、大変関心が非常に深いところだと思うが、この学力とは何かということを考えると、今日話した内容とダイレクトに繋がっていると感じている。

私の世代だと学力というと『中間テストとか、学校の算数の計算とかが非常によく素早くできると結果的に100点満点テストで100点に限りなく近く、点が取れるというのが学力の証明である』というイメージでいるが、最近の学力は、新しい側面、そういった部分だけではない部分が注目されている。OECDが実施しているピサ(PISA)という15歳の子供たちが受ける試験があるが、これが実は非常にそれをよく反映している。さらに、日本は非常にこのテストの結果はよい。ほとんどトップクラスといういい評価が得られている。

このPISAで問われていることは何か・・・コンピューターを使用する力も学力の中にカウントされるのではないかというお話をさせていただいたが、実はこのピサの中で、もう一つ大事なことがある。今日まさに話題になっていたコミュニケーションの力。もうちょっと言葉を変えると活用する力、あるいは説明する力というのが実は学力であるというふうに強く打ち出されている。

学力調査において行われているものもある程度はこのPISA型の調査と連動していて、国語や算数や数学といった問題の中に、そういうコミュニケーションがちゃんととれているかということ非常に強く問う傾向が最近高まっているように思っている。

例えば国語の問題。ディスカッションの場面が示されていて、間に穴が空いていて、前に言った人の話がちゃんと聞いているか、それを受けて自分の意見として語れているかということ問うような問題があったりする。数学の問題でも同じように、議論したり考えたりしている子供たちの様子をその中に入り込んで、その問題を解くというような形。単に、かけ算とかわり算とかそういったものができるというよりは、それをコミュニケーションの中で導ける力みたいなことが非常に強く調査の中では問われているように思う。

ゲーム障害とか、ネット依存の問題がなぜ問題なのかというのはまさにそこに問題の本質があるのではないかというふうに私は考えている。

ゲームやネットに依存し過ぎということは、これは家庭の中でのコミュニケーションの時間がそこに奪われているということ。せっかく家族全員揃っているのに、全員がスマートフォンの画面しか見ていないということで、同じ空間にいるにもかかわらずそこでは余りコミュニケーションが成り立っていない。こういう状況がずっと続いてくると、もしかしたら、そういう学力の中身にも非常に強く影響を及ぼしてきて、活用する力とか、表現する力といった部分が実は余り高まらないかもしれないというようなことを感じる。

グループのディスカッションの中で出ていたものの一つに、スマートフォンやインターネットということは切

り離せないそういう世界なのではないか。そして、その中で子どもたちはこれから生きていかなければいけない。この二つの現象は矛盾しているように見えるけれども、実は私は矛盾していないように思う。

つまりインターネットやゲームをきちんと適切に使えるかどうかは、これはあくまでも家庭やある種のコミュニティの中で議論したり考えたりすることを通じて決まっていくこと。

例えば、学校の先生や保護者の方が、「ゲームというのは、依存症につながるかもしれないからやってはいけません」という形で命令を下したとします。この現象はなんだろうと考えると、実はコミュニケーションは、そこでは、起こってないわけです。一方的に「やっちゃあだめですよ」というふうに伝えるだけでは、実は余り意味がない。子どもたちも、もしかしたらそんなに納得しないかもしれない。

ここで必要なことは何かと言うと、恐らくゲームやインターネットあるいはコンピューター機器を使う使い方について、学校や家庭あるいはその他のコミュニティの中できちんと話し合うこと。話し合っただけで決まることが1番大事ではないかというふうに感じている。

歩きスマホの問題。問題はさんざん言われているのに、なぜなくなるのか。結構深刻な問題。これだけ危険で命を落とす人もいるわけだが、その中でも依然なくなる。これはむしろ歩きスマホを禁止するという方向でいる限りにおいては恐らくなくなる。歩きスマホで問題なのは、歩きスマホによって事故を起こし、そして事故の結果命を失うことが問題だとすれば、歩きスマホを禁止するという手段をとるのではなく、道路そのものを歩きスマホをしてOKな道路と歩きスマホをしないで歩く道路の二つに分けられないかと。この二つを並存させたら歩きスマホがなくなるけれども、歩きスマホの結果、命を落とす人は限りなく減るのであろう。

これは実効性が高いのではないかと。つまりこの議論は何を言っているかという一方的な禁止とか一般的なルールの決め方みたいなことが負っている問題をよく表しているように思う。『ゲームが危険だ』とか『インターネットは使い過ぎると問題があったから使ってはいけない』という形で伝えるよりは、『使うとすればどういう方向性で使っていくのがいいのか』それをきちんと話し合ったり考えたりすることで解決していくという方法を取り入れるといいと思う。

それが学力ということの本質的な部分を表していくような時代の中で、一方的な禁止というのはあまり効果をもたなくなっていると思う。その意味では、本日、非常に活発にコミュニケーションが行われてゲームやインターネットやスマートフォン・デジタル機器について、これだけ語り合い・考え合ったというのは、それだけで価値があるというふうに思う。

静岡大学 島田先生

リーフレットの中の『生活に関する調査結果』の中で、『地域や社会をよくするために考えることがあるか』という項目が、小学生が高かったというところが興味深かった。新しい学習指導要領の教育課程の評価点の基準がある。その中で、社会に開かれた教育課程というところが一つキーワードになっている。

今までの学力というのは、学んだことの量が一つの指標だったが、これからはそれをどう社会に還元できるのか、活用できる力にまでしていくか。そこが大きなキーワードとなってくる。言い方を変えれば家庭・地域の課題を解決するために知っていることを知識や技能を使っていく。よりよい地域社会をつくっていくという矢印の方向が変わってきたという印象を受けている。そういった中で、小・中学生含めて子どもたちがその地域に対して関心を高めるか、これは、全国どこも非常に苦慮しているところだが、それがもう既に上回る結果が出てきたというところは、スクラムスクール運営協議会の成果も一つあるのかなと思う。保護者アンケートを分析しているという話があったが、ある研究者の分析をみると、子供の学力について親の経済資本と文化資本は、影響しているということは出てきている。

親の社会関係資本というキーワードがある。例えばその保護者が地域参加しているとか、家庭の中でコミュニ

ケーションをとっているというところが高いとそれはそのまま子どもの学力にいくのではなくて、それはその子どもの社会関係資本で地域のつながりとか友達関係のところが高まってその結果、学力の結果に間接的に（因果関係ではないが）関係があるのではないかというような研究成果がある。

そうすると今回の御前崎市の学力の向上という点でみると、こういった日ごろのつながり、子どもたちのつながりを高め、それが学力の成果に繋がったのかもしれないという側面も見えて、大変興味深いと思う。

これが学力にも影響があるかもしれないということで、大人もつながりをまた、結びつきをつけていくかというところも大きな視点かと思って聞いていた。

テーマが『ゲーム障害・ネット依存』を始め、家庭支援のあり方をどうするか、家庭支援をどうしていくかというようなお話だったかと思う。そういう意味で、そのつながりというところが強くなる一方、他の方で、いろいろな面での希薄さが、また親の孤立さは他の自治体では、さまざまな虐待などの痛ましいニュースが、取りざたされているけれども、その地域・学校・家庭が、困っている保護者さんを支援していくかというところも大事になっていくのかなと思う。

今、国のいろいろな政策、様々な審議会等でキーワードになっているのが、ソサイエティ5.0というキーワード。これから、人工知能・AIが普及していったって、今の職業がなくなるのではないかというような形で、予想されていますけれども、それをどう使っていくか普及していくかというところが大きな政策課題になっている。

そう考えると今の小・中・高校生は生まれながらのネット環境。我々はアナログの時代を知ってからデジタルの時代がやってきた。それぞれの良さというか、逆にそれぞれの怖さをリアルな体験としてもっているから、意見としてもっているが、今の子どもたちは、バーチャルが最初からあるので、即スマホを使ってしまう。感覚的にできてしまうという、そういった大きな違いもある。そういった違いがある中で、最初の学調の話になりますけれども、社会関係資本というところが機能するならば、これだけ便利な世の中だからこそリアルな体験というものを増やしていく。それがその課題解決のための問いの見つけ方とか解決するための共同生活とかというところにつながっていくといいのではないか。豊かな体験を増やしていくことをやっていくしかないのかも。その中で、特に苦しんでいる保護者、あるいは子どもを育てることで精一杯という方々もいらっしゃると思うので、セーフティーネットということも合わせて、スクラムを組みながら考えていく視点を感じた。（教育だけではなく福祉とか、別の分野になるかもしれないが・・・）

・その他

教育長より御前崎、教育振興協議会の話あり。

6 連絡

- (1) 次回 11月17日（日）10：00 御前崎市民会館（池新田） 9時30分開場
第4回は、『未来をつむぐつどい』と兼ねます。受付をってから会場にお入り下さい。
- (2) 第5回 1月16日（木）19：00 御前崎市役所 3階 301・302会議室